



絶版バイクの老舗「タイムトンネル」に、1台の超レア車が入庫した。と本誌・編集部へ連絡が届いた。星川店長の案内で実車を目の当たりにし、ドイツの名車「ミュンヒ」と出会った経緯を井上代表に伺った。

「共通の趣味で仲が良い友人のコレクターが所有する、ミュンヒの存在を知っていました。彼が本国ドイツ人バイヤーの交渉を断つてまで私とトレードしたい……と熱心に申し出た良縁もあり、私の愛車のうち四輪十迫い金、いわゆるバーターで入庫した秘蔵コレクションです。その車種や金額は、ご想像に任せます」と笑う。

ミュンヒの車歴は1960年代に遡り、タイムトンネルを通じて紐解いて見よう。歴史上の名車「プルフ・スーペリア」に匹敵すべくマシンを製作しようとする人達が、1964年に「トップシークレット作戦」として開発を始め

ドイツ流のマンモス級な絶版マシン

た。その1人がアメリカで雑誌「サイクル」を出版する社長フロイド・クライマー氏で、熱烈なファンだったインディアン・モーターサイクルの製造権利を譲り受けた。彼が依頼した第2の人物は、ドイツ人のエンジニア。彼こそがフリーデル・ミュンヒ氏であり、マシンを開発・製作し彼の名が車名にもなった。

両者の作戦は見事に達成され、同誌1966年5月号で内容が明らかになった。

その製作は、1台ずつオーダーメイド。当初のエンジン原型はNSU製の小型乗用車プリンツ1000用で、空冷4気筒4ストロークSOHC仕様だった。ボア×ストローク69×66・6mmのシヨ



巨大なアルミ製の燃料タンク下に、直立したアウトユニオンNSU製1177ccエンジンを搭載する。キャブはウェーバー製で、インジェクション仕様が併売される前のキャブ最終型は激レアだ。

トストローク996ccエンジンは、43ps/5250rpmでハイチューンするのにはふさわしい。吸気系はソレックス製シングルを取り除き、好みのキャブをセットできるようなフレーム構成された。1、2号車にはウェーバー製の40DCOE、メインボア40mmのキャブに32mmベンチュリーをセット。このキャブは、その後インジェクション仕様になるまでミュンヒ全車に装着された。ボア×ストローク75×66・6mm、72ps/6500rpm、レッドゾーン8000rpmのチューニングに合わせて、パワーに耐え得る軽量なフレームは、ノートのフェザーベッド型で造られていく。

装着パーツはBMWのヘッドランプ、ホレックスのマフラーなどドイツ車の物だったが、なんと驚くべきホンダCB72のエキゾーストも

使われた。さらに、フロントフェンダー、ステップ、ハンドルのグリップとレバーもCB72純正部品が見えるではないか。車重178kgで0-100km/hが5秒、0-100mile/hが17秒、最高速220km/hという強烈な走行性能は、「ジェットパワー」や「タービンエンジン」とも呼ばれ当時、右に出るマシンはいなかった。

生産500台未満だったミュンヒは、前期型が1000ccで後期型が1200cc。この実車は1973-75年式の後期モデルで、約2年前に日本でフルレストア済みの極上コンディションだ。もう日本には片手指の台数も現存しない超高額な激レア車……とも言われる。その気になる価格は？ ……タイムトンネルを訪れ、実車を見て聞いて欲しい。

TimeTunnel / タイムトンネル
東京都世田谷区上用賀 6-6-13
TEL: 03-3429-3355
営業時間: 10:30 ~ 20:00
定休日: 月曜 (祝祭日の場合は火曜)
URL: <http://timt.co.jp/>



1960~70年代のドイツ名車「MUNCH/ミュンヒ」を、ご存じだろうか？ およそ半世紀も昔に生まれたモンスターマシンは、もはや世界的に現存が困難な超レア車だ。そんな幻の名車が、タイムトンネルを経て、現代に復活…。絶版バイクの愛好家・マニアをも唸らせる激レア車を拝見し、世界のスーパークラシックを学ぶ。

マニアを唸らせるレア車
SUPER CLASSIC

Munch Mammoth 1200 TTS

- SPEC
ミュンヒ・マンモス 1200TTS マムート
- エンジン: NSU製 1177cc 空冷直列 4気筒 4ストローク SOHC 仕様
 - キャブレター: ウェーバー製
 - マフラー: ホレックス 4into2 エキゾースト
 - ミッション: 4速
 - 燃料タンク: アルミ製 27L
 - フロントフォーク: リックマン
 - サス: ガーリング
 - ブレーキ: 250mm φエアスクープ付き マグネシウム合金パネル
 - ホイール: 前後キャスト
 - タイヤ: F19インチ / R18インチ

